

農作物技術情報 第9号の要約

令和3年11月25日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
畑作物	<p>小麦：生育は順調で、越冬前の生育量は十分に確保されている。雪腐病の発生量は「並」と予想されているので、雪腐病の常発地帯では、雪腐病防除を根雪前に行う。越冬後の融雪対策のため排水路の点検、整備を行う。</p>
野菜	<p>寒じめほうれんそう：ハウス内の温度管理を徹底し、収量・品質を確保する。</p> <p>促成アスパラガス：伏せ込み後の適正な温度・かん水管理により、収量を確保する。</p> <p>冬春どり葉根菜類：生育促進と凍害防止のため、被覆資材を利用して保温する。病害対策として日中の換気等を実施し、湿度を下げる管理を行う。</p>
果樹	<p>りんご：凍霜害の影響で果実品質にばらつきがある。「ふじ」等の晩生種を貯蔵販売する際は、果肉に障害が発生していないかを随時確認し、注意して販売する。</p> <p>果樹全般：野ネズミ、ニホンジカなどの獣害対策、若樹の凍寒害・雪害対策に努める。また、令和4年度に向けた凍霜害対策に努める。</p>
畜産	<p>牧草・飼料作物：土壌分析を実施して土の状態を確認する。土壌診断結果に基づき、牧草や飼料作物への肥効が高まるように、pH矯正等を検討する。</p> <p>家畜飼養：子牛は、被毛や皮下脂肪が少なく、寒さの影響を強く受けるため、防寒対策、換気、エネルギー補給の徹底に努める。</p>
大雪対策	<p>農業施設：降雪前からハウスを補強するなど、しっかりと対策を講じる。</p> <p>降雪が予想される場合には暖房等を利用して施設温度を高めて自然落雪を促すとともに、降雪時にはハウス周辺の除雪を行う。除雪が追い付かない場合は、ビニールを切断・除去してハウスの倒壊を防ぐ。</p> <p>降雪後は倒壊の危険がないか注意しながら除雪に努めるほか、施設各部の損傷や資材の点検を行う。</p> <p>倒壊した場合は、十分に除雪し融雪を待ってから無理のない復旧作業に努める。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

農作物技術情報の本年の定期発行は今号で終了となります。